

統計だより

県内各市町の統計所管課だより(その13 長与町)

長与町企画財政部政策企画課 嶋津 友紀子

【長与町の紹介】 ～県下で最も人口が多い町～

長与町は、長崎市の北約 10km に位置し、山に囲まれた盆地や丘陵地に市街地が広がり、中心部を長与川が流れ大村湾に注ぐ豊かな自然に恵まれています。また、長崎市に隣接し、長与駅から長崎駅まで JR で約 16 分と交通利便性が高く、コンパクトな町の中に都市機能を有し、かつ、身近で豊かな自然環境を併せ持ったベッドタウンとして発展しています。

長与町は、昭和 44 (1969) 年 1 月 1 日に村から町へ移行し、令和 3 年で町制施行から 52 年目を迎えました。

町制開始時は、人口約 13,000 人、柑橘栽培を主体とした純農村地帯として栄えていましたが、昭和 40 年頃から長崎市街地が北部へ伸びるに伴い、住宅団地が次々と開発され、この 50 年間で人口は 3 倍以上に増加しました。国勢調査における人口は、平成 17 年の 42,655 人をピークに横ばいとなり、近年では、若者を中心とした県外への転出超過などから、減少に転じています。住民基本台帳における令和 2 年 12 月 31 日現在の人口は 41,356 人、世帯数 17,166 世帯となっています。

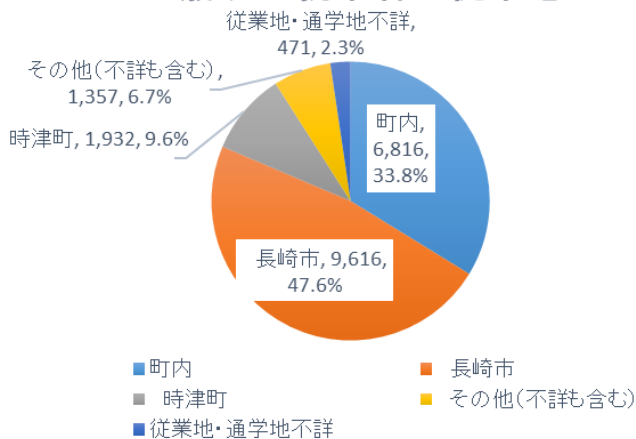
長与町は、幼児教育から大学まで揃っていることに加え、子育て支援の充実や県内トップクラスの学力などを背景に、特に 20 代～40 代の子育て世代に人気があります。また、町民意識調査では、87.5%の方が「住みやすい」と答え、83.8%の方がこれからも「住み続けたい」と答えるなど、「暮らしやすいまち」として高い評価を得ています。

<経済・生活圏>

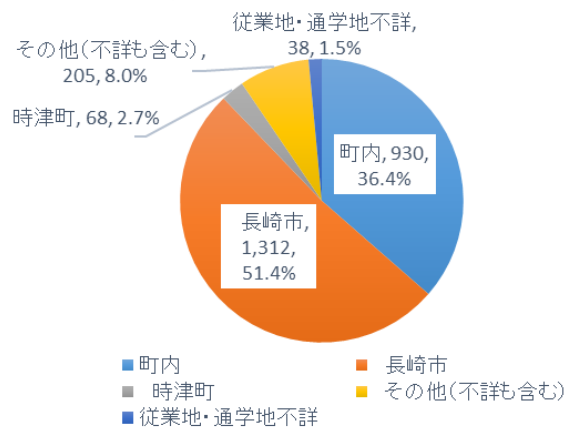
長与町は、隣接する長崎市や時津町と一体となった経済・生活圏が形成されています。平成 27 年国勢調査によると、就業者のうち町内就業者は 33.8%であるのに対し、従業地が長崎市の割合が 47.6%、時津町の割合が 9.6%、15 歳以上の通学者についても町内での通学者が 36.4%に対し、長崎市へ通学が 51.4%となっています。その結果、昼夜間人口比率(昼間人口/夜間人口)は 75.9%と県内で最も低い数値となっています。



15歳以上就業者の従業地



15歳以上通学者の通学地

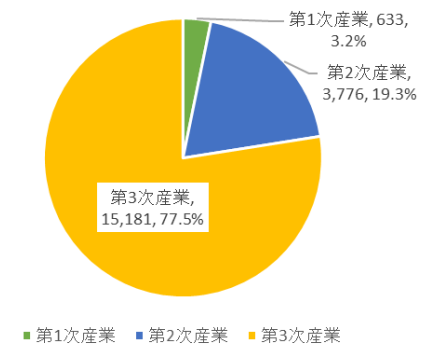


<産業>

長与町の就業人口は、サービス業を中心とする第3次産業が全体の8割近くを占め、その割合が年々高まりつつあります。平成27年国勢調査によると、第1次産業が3.2%、第2次産業が19.3%、第3次産業が77.5%となっています。

長与町の農業は、みかんの栽培を中心に行われてきましたが、平成19年、耕作放棄地の解消と農業振興に寄与するため、オリーブ栽培が開始されました。今では町内約6ヘクタールに約3,000本のオリーブが植えられています。

平成27年国勢調査就業人口



<統計指標>～長与町のここが県内1番！～

「平成29年度長崎県社会生活統計指標」より

指標名	数値等
可住地面積割合	65.09%
総面積1 km ² あたり人口	1,473.1人/km ²
人口自然増加率	2.43
人口千人あたり都市公園数	1.65所
他市町村への通勤者比率	72.88%
昼夜間人口比率(低い方から)	75.87%
就業者構成比に占める第3次産業の割合	75.18%
下水道排水区域人口比率	98.46%
人口千人あたり事業用乗用車保有台数	3.50台

